

ヤマブドウ雄株の混植割合を確認しましょう

平成16年春植えの苗木供給時には、雄株が少なめに配分されました。そこで、平成17年春には次に注意して植栽計画を立ててください。

植栽した本数と品種名を確認し、雄株の混植割合が20%になるように植栽配置を決める
雄株の「涼実紫3号」の不足した本数を確実に注文する
平成17年春植えで、雄株を追加植栽する

1 はじめに

ヤマブドウ県オリジナル品種「涼実紫」の苗木は平成16年度から供給されましたが、雄株が不足していたため少なめに配分されました。

ヤマブドウは雌雄異株なので、安定的な結実を確保するためには一定の割合の雄株の混植が必要です。不足した本数分の雄株を平成17年に追加植栽しましょう。

2 雄株の混植割合

林業技術センターでは、栽培試験を雄株20%の混植割合で行っており、20%で良好な結実が見られているので、雄株の混植割合は20%になるように植栽計画を作りましょう。なお、授粉樹である涼実紫3号の花期は、結実樹である1号、2号、4号、5号と一致しているので、植栽地のそばに野生の雄株が自生していたとしても、確実な受粉のため涼実紫3号を混植しましょう。

3 植栽配置の考え方

雄株の植栽配置は、園地全体に均等に配置するように考えます(下の図を参照)。

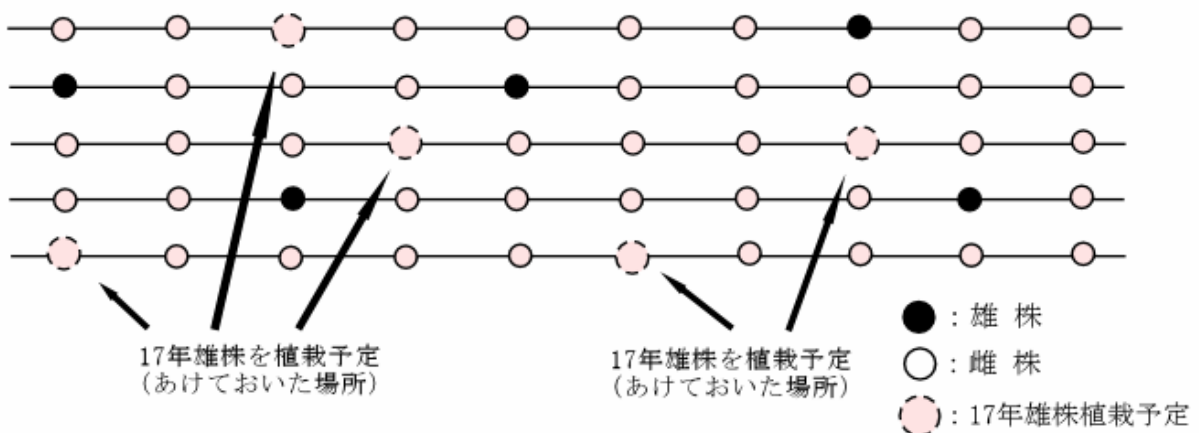
平成16年春の定植時に不足分の雄株植栽予定地をあけておいた場合は、そのあけておいた場所に植栽するようにし、植栽予定地がない場合は枯死株のあとに植栽するなど園地に均等に配置することが重要です。

4 予想される影響

ヤマブドウは植栽後3年目から結実します。雄株の数が少ない場合には、結実初年度の3年目には安定的な果実生産が確保できないかもしれませんが、雄株の追加植栽をすれば4年目からは追加植栽分の雄株にも着花しますので、十分な花粉が供給され、果実生産に対する影響は少ないと思われます。

図 ヤマブドウ植栽50本の例

雌40本
雄10本 (平成16年5本、17年5本)



(担当 林業専門技術員 伊東茂敏、 特用林産部 主任専門研究員 泉 憲裕)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11

TEL 019-697-1536

岩手県林業技術センター

FAX 019-697-1410

ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>